

『星と生きる』

(紀の川市優秀賞受賞)

粉河中学校 2年 岡澤 怜音

「あれ美味しそう。行こう行こう。」寒さの残る2月、ある地域のお祭りに来ていた。本当に後悔していることが1つだけある。それは、ポイ捨てをしてしまったことである。周りの人からダメと言われていたのに、手がごみで埋まっていたから、やってしまった。今思えば、自分は地球や人に対しての考えが浅はかだったと思う。

そんな後悔する気持ちに駆られたきっかけは、とあるドラマが始まりである。「日本沈没。」地球環境を破壊してしまったことにより、日本が沈没してしまうという内容のドラマを観た。沈没することは非現実的だが、この世界の地球はどんな問題を抱えているのかが気になり、インターネットを使い調べた。地球温暖化や大気汚染など、有名なものが出てきたが、僕の目に留まったのは、大量のごみからなるごみ問題である。詳しく調べてみると、太平洋上にごみが集中する地域、太平洋ごみベルトがあることを知った。文字を識別できるごみの中で1番多かったのが日本語表記のごみであったことも加えて知った。

そこで僕は過去の自分を振り返ってみることにした。それで、冒頭に話したことを思い出したのである。地球に悪いことをしたし、ある事情でお祭りが終わった後の会場を見かけたのだが、たくさんのゴミ袋にごみがパンパンに詰め込まれていて、あそこに僕のごみもあるのかと思うと、胸が痛んだ。ポイ捨ては、人にも地球にも迷惑をかけてしまうことだと改めて痛感した。

暖かさが帰ってきた3月、僕は環境保護のためにどんな活動がされているのかを調べた。すると、4Rという活動が出てきた。それで僕は小学校の時のごみ処理場見学の時に貰ったパンフレットを思い出し、家から探し出した。4Rというのは4つの対策法の英語の頭文字をとったものだそう。まずはリフューズ。ごみとなるものを断ることだ。次にリデュース。ごみとなるものを減らすこと。さらにリユース。ものを再利用すること。最後にリサイクル。資源として再生利用することである。このどれか1つでも意識して、今までの自分を反省しようと思い立ち、まずはリフューズから実践してみることにした。

まず最初の1週間は春休みに入り、たくさん友達と遊んだ。普段ならすぐに自室のゴミ箱がパンパンになるのだが、惜しまずにリフューズを心がけた結果、ごみが普段の半分くらいに収まったのである。頻繁にごみを出さずに済むし、環境にも貢献することができるリフューズは今も続けている。

もっと4Rの実践に取りかかり、リデュースも始めた。過去の自分を見つめ、

少しずつ意識している。まだまだできることはあるけれど。

僕は、たった1つのポイ捨てから、行いを反省し、4 Rを中心とした環境対策に取り組んでいる。たった1人の行動に何の意味があるのかと思う人もいると思うが、そのたった1人も、この文章を読んだり、他のことから感化された人が取り組んでいくことで実践する人が増えて大きなパワーとなり、地球に優しく、さらには人にも優しくできると思う。先進国である日本に生きている以上、持っている技術力を環境問題を解決することに向けて使ってほしいし、僕ら1人1人が少しでも友達に声をかけたり、率先して対策をすすめていくことで太平洋ごみベルトの規模も縮小するし、ごみ拾いをする人の苦労を減らしたり、街の景観を守ることができるのである。まさに、一石二鳥である。

小さな1歩を、大きな力に。その思いを伝えていき、この星と生きようと思う。

